

大崎麦作情報 総括号

令和元年産小麦の特徴・次年度に向けて

- 播種が適期に行われ、その後高温であったことから生育量は平年を上回りました。
- 粒張りが良く、収量は平年を上回りました。
- 次年度の栽培に向けて、排水対策を行いましょう。

1 気象経過

(1) 越冬前（10月上旬～12月中旬）

気温と日照時間は平年並～やや高くなりました。11月上旬と12月中旬に降雨がありましたが、それ以外は平年と比較して少ない傾向となりました。

(2) 冬期間（12月下旬～3月中旬）

気温は2月中旬まで平年並となり、2月中旬～3月中旬まで平年より高くなりました。日照時間は平年並～やや高くなりました。降水量は平年より少なくなりましたが、12月下旬、1月下旬、3月上旬にまとまった降雪がありました。

(3) 越冬後（3月下旬～6月下旬まで）

期間中は寒暖差があり、3月下旬～4月上旬、4月下旬は平年より低くなりましたが、それ以外は平年並～平年より高くなりました。日照時間は平年並～やや高くなりました。降水量は4月上旬～4月中旬、5月中旬が少雨でしたが、他期間の降水量は平年より多くなりました。3月下旬～4月上旬には降雪がありました。

最高・最低気温（℃）

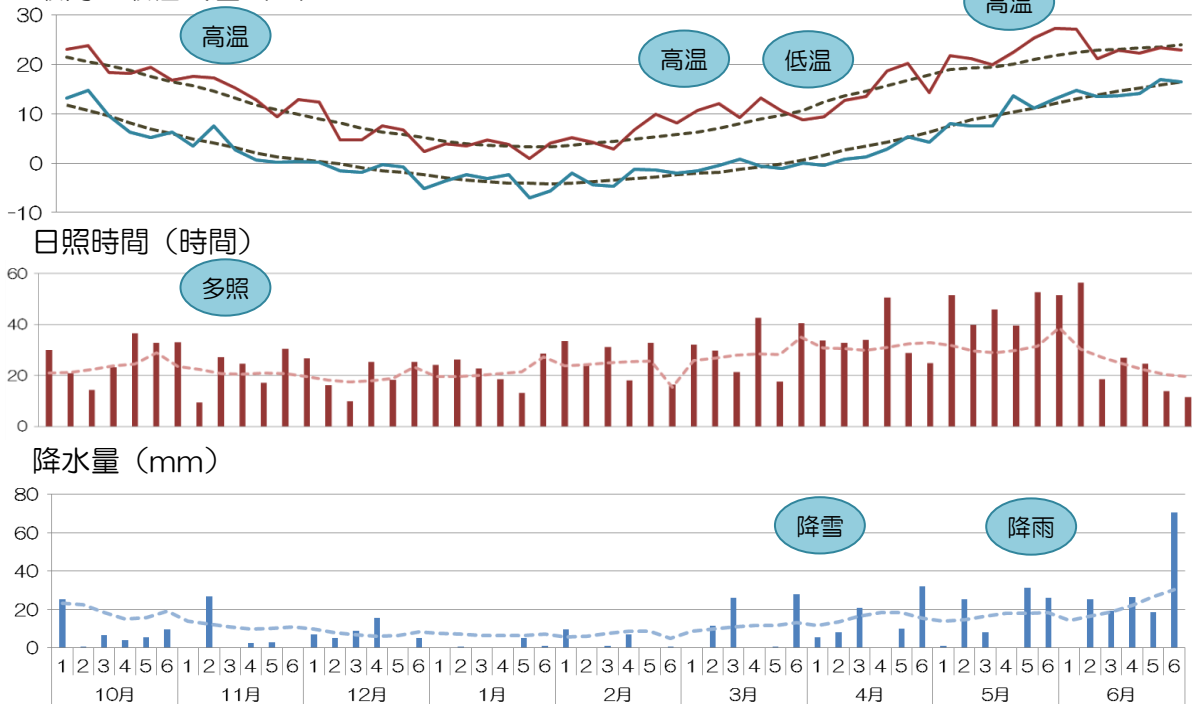


図1 気象経過（アメダス古川）

※実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育概況

(1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

播種時期は降雨が少なく、概ね適期に行われました。その後、高温・多照となったことから生育量は平年を上回りました。

2月8日時点では鳥害が多く見られ、草丈・茎数ともに平年並となりました。幼穂長は0.4mm（平年差+0.24mm）と平年を上回りました。

(2) 越冬後（3月～6月）

3月20日時点では草丈・茎数ともに平年並となりましたが、3月下旬～4月上旬の低温・積雪により、4月10日時点では平年を下回りました。幼穂長についても3月20日時点は平年を上回りましたが、4月10日時点は平年を下回りました。

生育ステージについては、出穂期・成熟期ともに平年より遅くなりました。成熟期調査時点では適度な降雨と日照があったため、稈長・穂長ともに平年を上回りました。

減数分裂期の追肥後に適度な降雨があったことから、粒張りが良く、収量・千粒重・容積重は平年を上回りました。また、開花期以降（5月下旬頃）に降雨があった影響により赤かび病の発生がやや見られました。

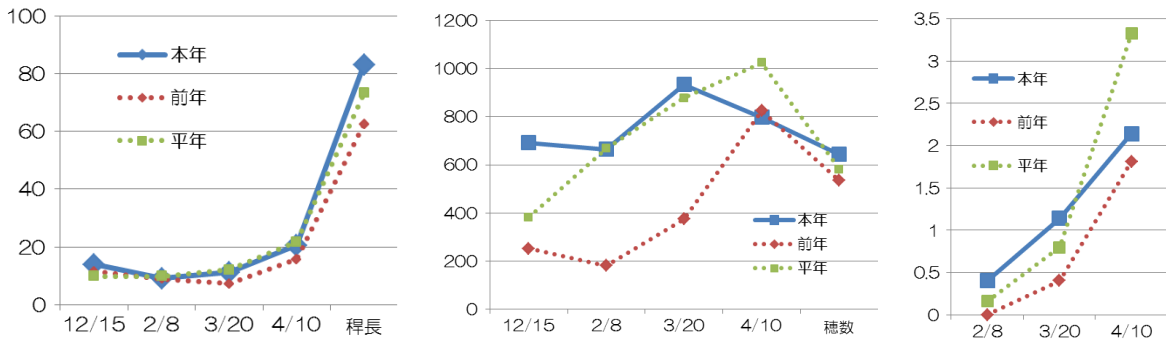


図2 草丈（左）茎数（中）幼穂長（右）の推移

表1 生育ステージ

地区名 品種名	区分	播種日	出穂期	成熟期
古川 シラネコムギ	本年	10/19	5/11	6/26
	前年差	10日早い	同日	2日遅い
	平年差	4日早い	3日遅い	4日遅い

※ 平年差は、過去5か年（平成26年～平成30年産）の平均値との比較。

表2 成熟期・収量調査結果

地区名 品種名	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m³)
古川 シラネコムギ	本年	83	8.1	643	43.6	833	660
	前年比	133%	105%	120%	151%	108%	203%
	平年比	113%	108%	111%	119%	116%	133%

※ 平年比は、過去5か年（平成26年～平成30年産）の平均値との比較。

3 今後の管理 ～排水対策～

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して、ほ場の排水対策をしっかりと行いましょう。

湿害は土壌中の酸素の欠乏が引き金になり、根の呼吸作用の阻害と土壌の還元化による有害物質の発生によって麦の活力低下につながります。

表3 麦類における生育時期別の湿害

生育時期	湿害の影響
播種直後	発芽不良，不揃い，発芽遅延
出芽後期～分けつ期	根の伸長抑制による浅根，分けつの減少，葉の黄化
節間伸長期～出穂期	根の機能障害及び弱小分けつの枯死，幼穂生長阻害による穂数の減少，穂の縮小化など
出穂期以降	粒の充実不良のための千粒重が軽くなり，収量・品質が低下，稈の伸長抑制

○明きよの施工

- ほ場の周辺とほ場内5～10m間隔に1本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

○補助暗きよ・心土破碎の施工

- 補助暗きよ（弾丸暗きよ，穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- 心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月15日～11月30日）◆◆◆◆◆

機械の操作ミス，過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき，依然として農作業死亡事故が発生しています。ゆとりをもった正しい操作により事故を未然に防ぎましょう。

重点推進テーマ 「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」